THE SSJ CHRONICLE

- スケジューリング学会ニュースレター -

(http://www.sche-socie.jp/)

2006 年 3 月 **Vol. 8 No. 20**

講演募集
スケジューリング国際シンポジウム 2006 (ISS2006)

[共催] 日本機械学会生産システム部門, スケジューリング学会

[協賛] 精密工学会，システム制御情報学会，日本ロボット学会，日本経営工学会, 日本工作機械工業会, PSLX コンソーシアム，日本オペレーションズ・リサーチ学会，日本設計工学会，砥粒加工学会，製造科学技術センター, 計測自動制御学会, 日本品質管理学会，自動車技術会, 人工知能学会

[開催日] **2006 年 7 月 18 日（火）～ 7 月 20 日（木）**

[会場] **(私学会館）アルカディア市ヶ谷 (東京都千代田区九段北 4-2-25)**

[ISS2006 の主旨]

最近のスケジューリング理論の進歩および生産現場での実践技術の進展は目覚しいものがあります．特に，近年のグローバリゼーション，メガコンペティション（大競争）時代においては，企業の存続・発展のためのキーテクノロジーとしての戦略的スケジューリングの重要性は高まる一方です．また，IT 革命に伴い，SCM・APS・TOC などのスケジューリングの方法論や理論が話題となっています．

このような状況のもとで，このシンポジウムは，日本国内と諸外国のスケジューリング研究者が一堂に会し，活発な討論を通じて，相互の交流を深める場として企画されました．第 1 回は，2002 年に浜名湖で，第 2 回は 2004 年に淡路島で, 両シンポジウム共に多数の方にご参加いただき，盛況の内に幕を閉じました.今回が第 3 回です.本シンポジウムでも，活発な討論を通じて，戦略的スケジューリングの新たな技術が創発されることを期待しています．多数の皆様の積極的なご参加をお願いいたします．

組織委員会委員長：藤本 英雄
実行委員会委員長：由良 憲二
国際プログラム委員会委員長：茨木 俊秀

[関連分野]

スケジューリング理論／実践スケジューリング技術／スケジューリング適用事例／最適化法／評価法／APS／SCM／ERP／JIT／TOC／プランニング／コンカレントエンジニアリングなど，スケジューリングに関連する全テーマ

目　次

講演募集　スケジューリング国際シンポジウム 2006 (ISS2006) **1 頁**

2005 年通常総会議事録 **4 頁**

2005 年度第一回理事会議事録 **8 頁**

2005 年度第二回理事会議事録 **8 頁**

2005 年度拡大評議会議事録 **9 頁**

[企 画]

＊国内外の著名な講師による，特別講演，チュートリアル講演を予定しております．

＊本シンポジウムの優秀論文による日本機械学会 International Journal 論文誌特集号を企画しております．

＊Best paper award の授賞を企画しております．スケジューリングの理論分野と応用分野の研究に対して，それぞれ最大 1 件の授賞を行う予定です．

[論文投稿の関連情報]

主なスケジュール：

論文フルペーパー投稿締切日： 2006 年 3 月 24 日(金)（延長いたしました）

論文審査結果通知日： 2006 年 4 月 30 日(日)（延長いたしました）

会議事前参加登録締切日（発表者は必須）： 2006 年 5 月 31 日(水)

印刷用論文締切日： 2006 年 5 月 31 日(水)

参加費：

会員および共催・協賛団体会員	40,000 円
その他	50,000 円
学生	20,000 円

＊以上は，1 冊の講演論文集，懇親会代を含みます．

使用言語： 英語

論文原稿：

2～6 枚（1 枚あたり 1,000 語～1,200 語程度）

講演申込方法：

電子メールにて，
iss06-pa@vier.mech.nitech.ac.jp
まで，以下の(1)～(8) をお送り下さい．

(1) 発表形式（一般応募論文発表あるいは産業事例論文発表），(2) 題名，(3) 著者名及び所属，(4) 要約（200 語以内），(5) キーワード（5 つ程度），(6) 代表者名，所属，住所，電話及び FAX 番号，E-mail アドレス，(7) 講演論文 PDF 原稿，(8) 原稿枚数（2 枚～6 枚より選択）

＊講演申込時に上記(7)の原稿も同時にご提出いただきますのでご注意下さい．

＊会議の詳細及び会議参加申込み等は，
http://www.se.uec.ac.jp/iss2006/
をご覧下さい．

[ISS2006 論文送付先]（組織委員会事務局）

iss06-pa@vier.mech.nitech.ac.jp
組織委員会委員長　藤本英雄
〒466-8555　名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学大学院 工学研究科
情報工学専攻
E-mail: fujimoto.hideo@nitech.ac.jp

[ISS2006 問合せ先]（実行委員会事務局）

実行委員会委員長　由良憲二
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学　システム工学科
E-mail: yura@se.uec.ac.jp（問合せ）
http://www.se.uec.ac.jp/iss2006/

[ISS2006 委員会]

組織委員会

委員長	藤本　英雄	名古屋工業大学
	荒井　栄司	大阪大学
	木瀬　　洋	京都工芸繊維大学
	徳山　博于	静岡大学
	藤井　　進	神戸大学
	由良　憲二	電気通信大学
	茨木　俊秀	関西学院大学
	黒田　　充	（名誉組織委員）青山学院大学　名誉教授

実行委員会

委員長	由良　憲二	電気通信大学
	貝原　俊也	神戸大学
	杉村　延広	大阪府立大学
	諏訪　晴彦	摂南大学
	福田　好朗	法政大学
	日比野浩典	(財)機械振興協会
	梅田　茂樹	武蔵大学
	小池　　稔	産業技術短期大学
	高田　祥三	早稲田大学
	松田三知子	神奈川工科大学

横山　雅夫 福島大学
舘野　寿丈 首都大学東京
松井　正之 電気通信大学
西岡　靖之 法政大学
高田　昌之 電気通信大学
梅谷　俊治 電気通信大学
成田　浩久 名古屋工業大学

国際プログラム委員会

委員長　茨木　俊秀 関西学院大学
野々部宏司 法政大学
玉置　　久 神戸大学
森田　　浩 大阪大学
柳浦　睦憲 名古屋大学
田村　隆善 名古屋工業大学
石井　和克 金沢工業大学
軽野　義行 京都工芸繊維大学
宮崎　茂次 岡山大学
宮下　和雄 (独)産業技術総合研究所
八巻　直一 静岡大学
竹田　　賢 青山学院大学
加藤　直樹 京都大学
上野　信行 県立広島大学
中出　康一 名古屋工業大学
石井　博昭 大阪大学
大野　勝久 愛知工業大学
小西　正躬 岡山大学
西　　竜志 岡山大学
寺野　隆雄 東京工業大学
長谷部伸治 京都大学
冬木　正彦 関西大学
増山　　繁 豊橋技術科学大学
森戸　　晋 早稲田大学
米田　　清 福岡大学
荒川　雅裕 関西大学
井上　一郎 京都産業大学
関口　恭毅 北海道大学
鳩野　逸生 神戸大学
村松　健児 東海大学
安田　一彦 東北大学
吉冨　康成 京都府立大学
中野　一夫 (株)構造計画研究所
中野　　冠 (株)豊田中央研究所
富山　伸司 JFE エンジニアリング
成松　克己 東芝セミコンダクター社
成田　浩久 名古屋工業大学
塩田　光重 (株)日鐵運輸
中尾　芳隆 (株)キャノンシステムソリューションズ
西村　卓也 (株)住友重機械工業
P. Brucker Univ. of Osnabrueck
E. Pesch Univ. of Siegen
A. Agentis Univ. of Siena
Y. Crama Univ. of Liege
S. Elmaghraby North Carolina State Univ.
K.E. Stecke Univ. of Texas at Dallas - School of Management
J. Efstathiou Univ. of Oxford
H. Hwang KAIST
G. Kendall Univ. of Nottingham
K. Metaxiotis National Technical Univ. of Athens, Greece
B. Mohd Omar Univ. of Malaya, Malaysia
M. Sevaux Univ. of South-Brittany
H. Shin SAP Japan Co. Ltd.
G. Steiner McMaster Univ.
L. Sun Xi'an Jiaotong Univ.
Z. Xiaobo Tsinghua Univ.
D. Zhu Fudan Univ.

2005 年通常総会議事録

日 時： 2005 年 9 月 30 日（金）13:00～14:00
場 所： 神戸大学　Ａ会場

１．出席者数
　総会成立要件：2005 年 9 月 30 日現在　正会員数 221．委任状数 36，出席 20 名以上
　なので，成立した．
２．議長に会長が選出された．
３．審議事項
　１）2005 年度事業報告が（資料 1）に沿ってなされ、承認された．
　２）2005 年収支決算報告が（資料 2）に沿ってなされ，承認された．
　３）監査報告がなされ，承認された．
　４）SSJ2004 報告が（資料 3）に沿ってなされ、承認された．
　５）2006 年度事業計画が（資料 4）に沿ってなされ、承認された．
　６）2006 年度収支予算案が（資料 5）に沿ってなされ，承認された．
　７）役員改選結果が（資料 6）に沿ってなされ，承認された．
　８）学会賞について会長より，2005 年度は見送る旨報告があり，承認された．
４．報告
　１）理事会において，黒田充氏を名誉会員に推挙することが報告された．
　２）SSJ2006 は下記のとおりに決定した旨報告された．
　　実行委員長　金沢工業大学　石井和克教授
　３）ISS2006 は下記のとおりに決定した旨報告された．
　　実行委員長　電気通信大学　由良憲二教授

資料 1　2005 年度事業報告

・SSJ2004 の開催
　スケジューリングシンポジウム SSJ2004 を開催した．
　期　日：　2004 年 9 月 29 日，30 日
　場　所：　静岡大学（浜松キャンパス）
・ニューズレターの発行
　本年は発行されなかった．
・名誉会員
　理事会にて黒田充氏を名誉会員に推薦された
・研究会
　1) Modern Manufacturing Management(3M 研究部会)【主査　黒田充（青山学院大学)】を継続する．
　2) 「先進的スケジューリング」研究部会【主査　木瀬洋（京都工芸繊維大学)】を継続する．
　3) 「グローバル競争に打ち勝つ新しい JIT 生産・物流･販売システムの提案」のための産学共同研究会【主査　田村隆善（名古屋工業大学)】を継続する．
・生産学術連合会議
　例年通り，生産学術連合会議に参加した．
・横断型基幹科学技術研究団体連合
　例年通り，横断型基幹科学技術研究団体連合に参加した．
・2005 年度 スケジューリング学会 学会賞の贈呈
　スケジューリング学会より 2005 年度の学会賞はとして，学術賞と技術賞をそれぞれ 1 件ずつあり，選考委員会〔委員長：由良副会長〕の審査の結果，贈呈を取りやめた．
・その他
　入会：正会員１，学生会員１．
　理事会：３回開催．
　Web を外部委託し，８月より運用に入った．

以上

資料 2　2005 年度収支決算報告書

自　平成１６年９月　１日
至　平成１７年８月３１日

単位:円

収入			支出		
(1) 前年度繰越金		38,140	(1) 事務費		7,470
(2) 会費		257,000	人件費	0	
正会員(51名)	187,000		雑費	870	
学生会員 (0名)	0		印刷費	0	
賛助会員 (4社)	60,000		通信費	4,900	
入会金 (5件)	10,000		年会費振込手数料 (SSJ負担分	0	
(3) 論文集バックナンバー販売		8,000	交通費	0	
(4) SSJ2004開催収入		1,216,000	消耗品費	1,700	
参加費			(2) 会合費		52,940
一般 (@9,000 or 10,000*70名	657,000		理事会･評議会合費	36,800	
学生(@2,000 or 3,000*18名)	40,000		交通費	16,140	
懇親会 (@3000*43名)	129,000		会場費	0	
助成金　2口	160,000		(3) 事業費		112,000
広告費　3社	30,000		ホームページ維持費	0	
企業展示　4社	200,000		研究部会補助金	0	
(5) 研究部会収入		0	生産学術連合会議 (第8回)	20,000	
(6) 受取利息		0	会員名簿発行費	0	
			横幹連合参加費 (2004年度)	30,000	
			学会賞	62,000	
			(4) SSJ2004開催費		1,095,988
			会場費	0	
			論文集印刷費	268,800	
			WEB開設代	50,000	
			交通費	100,780	
			謝金	120,000	
			宿泊代	70,000	
			学生アルバイト	265,000	
			諸経費	42,368	
			懇親会費	179,040	
			(5) 特別事業積立金		200,000
			(6) 次年度繰越金		50,742
合　計		1,519,140	合　計		1,519,140

資料 3　ISS2004 報告

参加人数：63 名

72 名（招待講演 2 名，ゲスト 4 名，アルバイト 3 名を含む）

外国からの参加人数：15 名（約 20%）

参加国：11 ヶ国

ドイツ，スウエーデン，日本，中国，カナダ，ベトナム，オーストラリア，ルクセンブルク，シンガポール，フランス，マレーシア

論文数：44 報（53 報提出，5 件辞退，1 件不可，3 件未提出）

資料 4　2006 年度計画案

・SSJ2005 の開催

スケジューリングシンポジウム SSJ2005 を開催する.

期　日：　2005 年 9 月 29 日，30 日

場　所：　神戸大学（実行委員長　藤井進教授）

・SSJ2006 の開催

スケジューリングシンポジウム SSJ2006 を開催する.

期　日：　未定（理事会で決定予定）

場　所：　金沢工業大学（実行委員長　石井和克教授）

・ISS2006 の開催

期　日：　2006 年 7 月 18 日～20 日

場　所：　アルカディア市ヶ谷（私学会館）（実行委員長　由良憲二教授：電気通信大学）

・ニューズレターの発行

年３回発行する予定.

・研究部会

1) Modern Manufacturing Management(3M 研究部会)【主査　黒田充（青山学院大学)】を継続する.

2) 「先進的スケジューリング」研究部会【主査　木瀬洋（京都工芸繊維大学)】を継続する.

3) 「グローバル競争に打ち勝つ新しい JIT 生産・物流･販売システムの提案」のための産学共同研究会【主査　田村隆善（名古屋工業大学)】を継続する.

・生産学術連合会議

例年通り，生産学術連合会議に参加する.

・横断型基幹科学技術研究団体連合

例年通り，横断型基幹科学技術研究団体連合に参加する.

・2006 年度 スケジューリング学会 学会賞の贈呈

スケジューリング学会より 2006 年度の学会賞として，学術賞と技術賞をそれぞれ最大 1 件ずつ贈呈する.

・その他

必要に応じて，スケジューリング学会会員に有益であると思われる事業を実施する.

以上

資料 5　2006 年度収支予算案

平成１７年９月１日
至　平成１８年８月３１日

単位:円

収入			支出		
(1) 前年度繰越金		50,742	(1) 事務費		100,000
(2) 会費		846,000	人件費	30,000	
正会員(221名)	663,000		印刷費	10,000	
学生会員 (13名)	13,000		通信費	30,000	
賛助会員 (5社)	150,000		交通費	20,000	
入会金 (10名)	20,000		消耗品費	10,000	
(3) SSJ2005開催収入		1,000,000	(2) 会合費		60,000
参加費 (80名)	800,000		理事会･評議会費	30,000	
懇親会 (40名)	200,000		交通費	20,000	
論文集追加販売	0		会場費	10,000	
(4) 受取利息		10	(3) 事業費		586,000
			ニュースレター費	0	
			ホームページ作成費	100,000	
			ホームページ維持費	96,000	
			学会賞	20,000	
			研究部会費	300,000	
			生産学術連合会参加費	20,000	
			横断型研究団体参加費	50,000	
			(4) SSJ2005開催費		1,000,000
			会場費	100,000	
			印刷費	360,000	
			会議費	80,000	
			交通費	40,000	
			人件費	150,000	
			消耗品費	20,000	
			親睦会費	200,000	
			予備費	50,000	
			(5) 特別事業積立金		100,000
			(6) 予備費		50,752
合　計		1,896,752	合　計		1,896,752

資料 6 役員改選

2005 年度役員

氏　名	役　職		分　担	所　属
徳山　博于	会　長		統　括	静岡大学情報学部
中野　一夫	副会長			構造計画研究所
由良　憲二	副会長			電気通信大学
木瀬　　洋	監　事	新　任		京都工芸繊維大学
石井　和克	理　事	新　任		金沢工業大学
稲垣　道雄	理　事	新　任		ロピックス
軽野　義行	理　事	新　任	ニューズレター	京都工芸繊維大学
諏訪　晴彦	理　事	新　任		摂南大学
成田　浩久	理　事	新　任	財　務	名古屋工業大学
西　　竜志	理　事	新　任		岡山大学大学院
松井　正之	理　事	新　任		電気通信大学
宮下　和雄	理　事	新　任		産業技術総合研究所
宮崎　茂次	理　事	新　任		岡山大学大学院
八巻　直一	理　事	新　任	庶　務	静岡大学工学部
安田　一彦	理　事	留　任		東北大学
荒川　雅裕	理　事	留　任		関西大学
井上　一郎	監　事	留　任		京都産業大学
今泉　　淳	理　事	留　任		東洋大学
伊呂原　隆	理　事	留　任		上智大学
貝原　俊也	理　事	留　任		神戸大学
関口　恭毅	理　事	留　任		北海道大学
鳩野　逸生	理　事	留　任		神戸大学
村松　健児	理　事	留　任		東海大学
吉冨　康成	理　事	留　任		京都府立大学
成松　克己	理　事	留　任		(株)東芝 セミコンダクター社

半数改選とし，8 月 31 日締め切りで選挙（理事会候補者リスト付）を実施したところ，下記新任各位が投票総数 55 中 55 票を獲得した.

2006 年度役員

徳山　博于	会　長		統　括	静岡大学情報学部
中野　一夫	副会長			構造計画研究所
由良　憲二	副会長			電気通信大学
木瀬　　洋	監　事	留　任		京都工芸繊維大学
石井　和克	理　事	留　任		金沢工業大学
稲垣　道雄	理　事	留　任		ロピックス
軽野　義行	理　事	留　任		京都工芸繊維大学
諏訪　晴彦	理　事	留　任		摂南大学
成田　浩久	理　事	留　任		名古屋工業大学
西　　竜志	理　事	留　任		岡山大学大学院
松井　正之	理　事	留　任		電気通信大学
宮下　和雄	理　事	留　任		産業技術総合研究所
宮崎　茂次	理　事	留　任		岡山大学大学院
八巻　直一	理　事	留　任		静岡大学工学部
塩田　光重	理　事	新　任		日鐵運輸（株）
日比野浩典	理　事	新　任		（財）機械振興協会
竹田　　賢	理　事	新　任		青山学院大学
加藤　直樹	理　事	新　任		京都大学
上野　信行	理　事	新　任		県立広島大学
草刈　君子	理　事	新　任		ＳＡＳ-Japan
中出　康一	理　事	新　任		名古屋工業大学
西岡　靖之	理　事	新　任		法政大学
今泉　　淳	監　事	新　任		東洋大学

スケジューリング学会 2005 年度
第一回理事会（電子会議）議事録

2005 年 5 月 27 日
会長　徳山 博于

理事数 25，定足数 17 のところ，電子的出席者数 17 でしたので，理事会は成立しました．

Ⅰ　審議事項

1．黒田先生　名誉会員　推薦について
回答（賛成多数†）
早速ご本人とコンタクトし，ご報告をいたします．

2．入会申し込みについて
名前：為広隆二，所属：日本アイビーエム・インダストリー・ソリューション(株)
回答（賛成多数†）
早速ご本人に伝えます．

3．学会賞の推薦について
回答（賛成多数†）
意見（選考委員会の設置が必要ではないか）
会則より，副会長を委員長とし，理事会が推薦する若干名をもって選考委員会を設置することになっておりますので，次回理事会にて委員を推薦し，選考に入ることといたします．

4．Web とメイリングリストの運用体制整備について
回答（賛成多数†）
意見（否の意見は予算的に大丈夫なら賛成というものでした．）
相見積もりの結果非常に安く引き受けてくれる業者がありましたので，貴重な予算を無駄にしない範囲で効率的な運用をすべくさらに詰めた後，できるだけ早く運用に入ります．

5．横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）脱会について
回答（賛成多数†）
意見（内容がよく分からないので，返事は保留である，という意見が４件でした．）
本年は続行し，総会に向けて理事会にて再考しましょう．

6．来年春の国際シンポジウム
推薦者氏名・所属（早稲田大学　森戸先生（２票），電通大学　由良先生，京都工芸繊維大学　木瀬先生）
意見（関東で開催してはどうか）
森戸先生に会長から打診をすることとした．

7．SSJ2006（来年のシンポジウム）
推薦者氏名・所属（東海大学　村松先生，金沢工業大学　石井先生（２票））
石井先生に会長から打診をすることとした．

スケジューリング学会 2005 年度
第二回理事会（電子会議）議事録

2005 年 7 月 27 日
会長　徳山 博于
庶務担当理事　八巻直一

2005 年度の第二回理事会を電子会議にて開催された，議事録である．回答総数は２１であり，無効はなかった．

Ⅰ　審議事項

1．入会申し込みについて（学生会員）
下記の方より入会申し込みがありました．推薦者は黒田充様です．名前： 片岸　秀明，所属： 東京大学工学部航空宇宙工学科中須賀研究室４年．ご承認いただけるかどうか，賛否をお寄せください．

【審議事項１の回答欄】
回答（賛成多数†）
意見（なし）

2．学会賞の推薦について
スケジューリング・シンポジウム 2004 において，下記論文の学会賞への推薦ですが，これまでには学術賞，技術賞につき各１編のみです．会長提案によりそれぞれの選考委員を下記のように設置する．
学術賞：［１Ａ４］MAX-2-SAT に対する分枝限定法，古賀祐一，柳浦睦憲，野々部宏司（京都大学），茨木俊秀（関西学院大学）
選考委員：石井和克，伊呂原隆，鳩野逸生
技術賞：［１Ｂ８］マスカスタマイゼーション対応の生産管理システム，古田恭三，上野信行，奥原浩之（広島県立大学），渋木宏明，伊場田賢司（マツダ），倉本敏明，寺迫耕治（ワイエヌエス）
選考委員：中野一夫，安田一彦，井上一郎
ご承認いただけるかどうか，賛否とご意見をお寄せください．

【審議事項２の回答欄】
回答（賛成多数†）
意見（なし）

3．学会賞の処遇について
これまでは，学会賞受賞者には盾を贈呈することになっておりましたが，これを廃止し表彰状とする．あわせて，英文論文誌への投稿を理事会で斡旋する．という提案です．
これについては，ご意見をお寄せください．

【審議事項３の回答欄】
（１） 英文雑誌掲載について（賛成多数†）．以下，6 項の意見があり．

①具体的に，例えばどの雑誌を考えているのか？
②インパクトファクターの高い露文誌[‡]への掲載は重要だ．
③斡旋という言葉はあいまいだ．正確な意味を示すべき．
④理事会から英文誌への投稿を斡旋されても受賞者にはあまりメリットはないと思う．レベルの高い論文が表彰されるのならば，当然それはジャーナルにも掲載されるはずだと思う．斡旋の効力も不明のように感じる．
⑤学会として学会誌を発行するべきではないか？学会で発表された優秀な論文を他の学会へ権利を渡すことにならないか？最近は電子雑誌も運営可能だ．
⑥理由の説明が無いので，判断しかねる．

（２）盾の廃止について（賛成多数[†]）．
以下，3 項の意見があり．
①廃止の必然性がよく理解できない．コスト削減か？理由を明記した方が良い．
②学会賞受賞の顕彰には，盾のようなものの方がよさそうな気がする．
③理由の説明が無いので，判断しかねる．

４．学会費徴収について
8 月に本年度学会費の徴収を開始したいと存じます．ご承認いただけるかどうか，賛否をお寄せください．

【審議事項４の回答欄】
回答（賛成多数[†]）
意見（“理事会マターでないのではないか！”，というものがあった）

【追記１】◇審議事項３についての追加説明（学会賞について）

上記のように，審議事項３について説明不足を指摘されました．そこで追加説明とお願いとをさせて頂きます．

まず理由説明ですが，以下の２件事情があり，審議事項３の提案となりました．

（１）スケジューリング学会は学会ながらも学会誌を発行できるような組織力（財政基盤や会員数）は残念ながらない．しかし，これに替わる何らかの方策を策定する必要がある．そこで，関係する分野の権威ある雑誌（英文誌等）としたが，唐突であったかも知れない．

（２）学会賞の盾の費用は，結構高く（ひとつ約 46,000 円）また業者の制作納期が長い（約２ヶ月）ことがあり，当学会では財政的と運営的な面から厳しい事情にある．

次に，お願いですが，インパクトファクターの高い雑誌への掲載について，雑誌をご紹介頂けないでしょうか？　当方としては，例えば藤本前会長にお願いして機械学会の英文誌への掲載することを，想定しておりますが，他に良い案があったらお教え下さい．

◇追加報告事項

木瀬先生からの打診「計測自動制御学会からの SICE セミナー現代制御理論入門」への協賛依頼についての対応ですが，理事会には事後報告することとして，「諾」の返事をすることにしたいと思います．

以上

スケジューリング学会 2005 年度 拡大評議会議事録

2005 年 9 月 30 日
会長　徳山 博于
庶務担当理事　八巻直一

拡大理事会出席 18, 委任状 27, 総数 55 で成立．

Ⅰ　審議事項

１．入会申し込みについて（正会員）
下記の方より入会申し込みがあり，了承した．
名前：伊藤邦春, 所属： 新日本製鐵（株）技術開発本部 環境・プロセス研究開発センター　計測・制御研究開発部

２．学会賞
本年は見送りとすることとなった．

３．総会議題
資料修正のうえ了承された．（総会議事録参照）

Ⅱ　報告事項

１．SSJ2006 開催の件
金沢工業大学　石井和克教授

２．ISS2006 開催の件
電気通信大学　由良憲二教授

今月の編集担当者
軽野義行　（京都工芸繊維大学）

編集担当者注：　[†]原本は賛否数を記載．
[‡]読み替え「欧文誌」．